

一同 八拾四艘

勢田 魷取舟

一傳馬 獵船 贳艘

堅田 漁船

一同 貳艘

橫江濱漁船

一小艦舟四千三拾四艘

田地養舟

右田地養船者、長深ニ無構、幅貳尺九寸以下之分、運上無之、

〔享保集成絲綸錄四十二〕元祿十五午年正月

一川船役銀之儀、去年度々相觸候得共、於于今不相濟ものも有之由、不届に候、依之船持有之町々  
船數之分、名主相改帳面に認、船持共判形取置之役船請負人萬屋市兵衛、深見屋又右衛門、伏見  
屋五郎兵衛、申來次第、帳面相渡之、向後は右帳面を以、請負人役銀可取立之間、無滯可相渡事、

正月

寶永四亥年三月

覺

一今度海手澣澣被仰付候に付、入用諸廻船、穀高を以割付役銀、廻船壹艘より壹ヶ年に壹度、宛可  
差出旨、被仰出候間、廻船問屋共方江相觸可申候以上、

三月

享保四亥年十二月

覺

一今度川船間尺相改極印打替候ニ付、江戸并關東筋川船は、何舟によらず改を請、極印可受之、但  
江戸船は來子正月より同六月まで、在々に有之船は、來年中を限り、江戸運送之序次第川船奉  
行役所江船乗行、川船奉行江相達、差圖次第、極印可請之、前々極印請おくれ候船たりといふ共、